



一般財団法人 日本パラリンピアンズ協会
2016～2021年 中期経営計画

突きぬけろ！ ～We can make a paradigm shift.～

2016年5月1日

1. ビジョン

(1) ゴール【最終的に目指す社会の姿】

-  障害の有無にかかわらず、誰もがスポーツを楽しめる社会を実現する。
-  スポーツを通じて、多様性を尊重する社会を実現する。

(2) ミッション【ゴールを達成するためにPAJがすべきこと】

- ① 競技種目、障害の違いを超え、パラリンピアン同士の結びつきを強めます。
- ② 様々な立場のアスリート（オリンピック、海外のパラリンピアン、ユースアスリートなど）とのつながりを深めていきます。
- ③ アスリートの自己成長を促します。
- ④ パラリンピアンの役割、パラリンピアンが伝えるべきことについて、情報や認識を共有します。
- ⑤ パラリンピック、パラリンピアンの価値について、広く社会に働きかけます。

2. 社会の動向

● パラリンピックの競技化や競技としての魅力の向上

- 近年、オリンピックとの関係が密接になるにしたがって、選手の競技環境や競技レベルも改善・向上し、パラリンピックのハイパフォーマンス化が加速しています。
- 国際的には、オリンピックへの出場や世界トップレベルの記録を出す選手が出現。国内では、ブライントサッカーの国際大会が有料イベントとして開催され、多くの観客を集めたことも注目されました。

● 2020年東京パラリンピックの開催

- 2020年夏季大会の開催都市が東京に決まって以降、日本におけるパラリンピックの注目度は飛躍的に高まっています。
- この追い風を活かし、パラスポーツへのさらなる参加、観戦、支援につなげていくこと、そして2020年東京パラリンピックを成功に導くことが望まれます。

● 多様性を尊重する共生社会に向けてのパラリンピック、パラリンピアンの可能性

- パラリンピアンは、守られるべき弱者という障害者像を打ち破るパワーを持ち、心身に障害を持つ人や高齢者などに希望をもたらす象徴的存在としての役割も担っています。
- パラリンピックを自国開催することは、競技会場の整備のみにとどまらず、誰もが行動しやすいアクセシブルな街づくり、多様性を認め合う共生社会を総合的に進めることにもつながります。

3. 主な取組

(1) パラリンピアン交流事業

正会員であるパラリンピアン同士のつながりを強めることを目的とし、交流事業、イベント等を開催します。また、(1)～(5)の事業・取組は、正会員で構成するプロジェクトチームにより遂行します。多くの正会員が企画、立案の段階から参画し、同じ目標に向かって活動を行うことで、パラリンピアンの一体感を醸成します。

(2) ネットワーク構築・拡大事業

正会員であるパラリンピアンと会員外のアスリート（オリンピック、海外のパラリンピアン、ユースアスリートなど）のつながりを強めることを目的とし、外部組織・会議等への委員派遣、イベント、国際交流等を実施します。

(3) 自己研鑽支援事業

正会員であるパラリンピアンの自主的な学びや自己成長を促すことを目的とし、勉強会の機会やトレーニングプログラムを提供します。

3. 主な取組

(4) 情報共有・情報発信事業

正会員であるパラリンピアンが、パラリンピアン役割や伝えるべきことを正しく理解、共有し、それらを広く発信できるようになることを目的とし、情報・認識共有のための取組や情報発信のための共通ツールの作成等を行います。

(5) パラリンピック、パラリンピアン付加価値向上事業

パラリンピック、パラリンピアンサポーター（理解者、支援者等）を増やすことを目的とし、国民、企業、関係組織等に広く働きかけを行います。

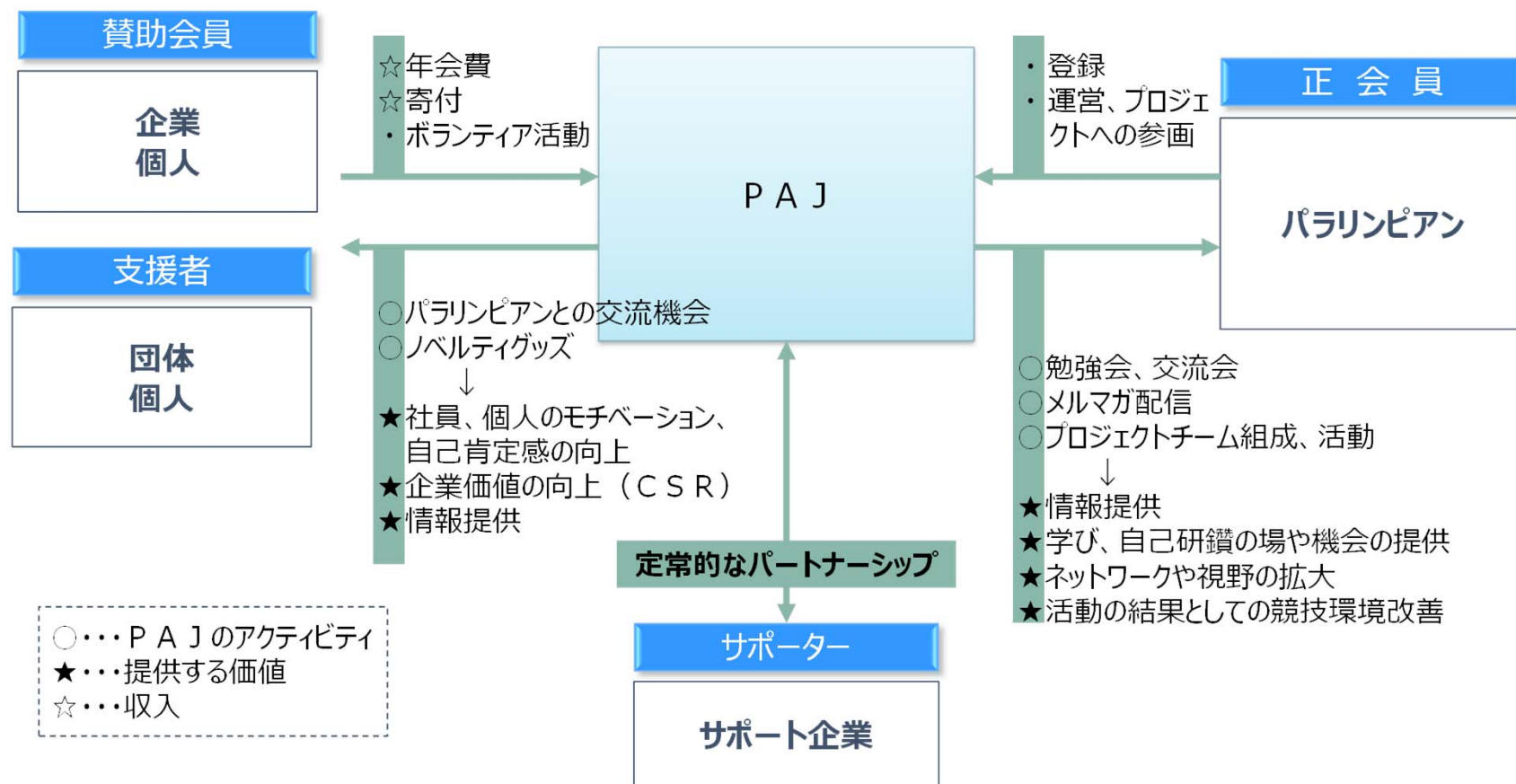
3. 主な取組

(6) 2020 特別事業

- ①パラリンピアンと支援企業の交流イベント
- ②パラリンピアンのためのテキスト作成（「パラ知る」プロジェクト）
- ③寄付講座の開催
- ④パラリンピアンを目指す若手選手への奨励金制度の構築
- ⑤スポーツ版ダボス会議（2016年、東京・京都）でのプレゼンテーション

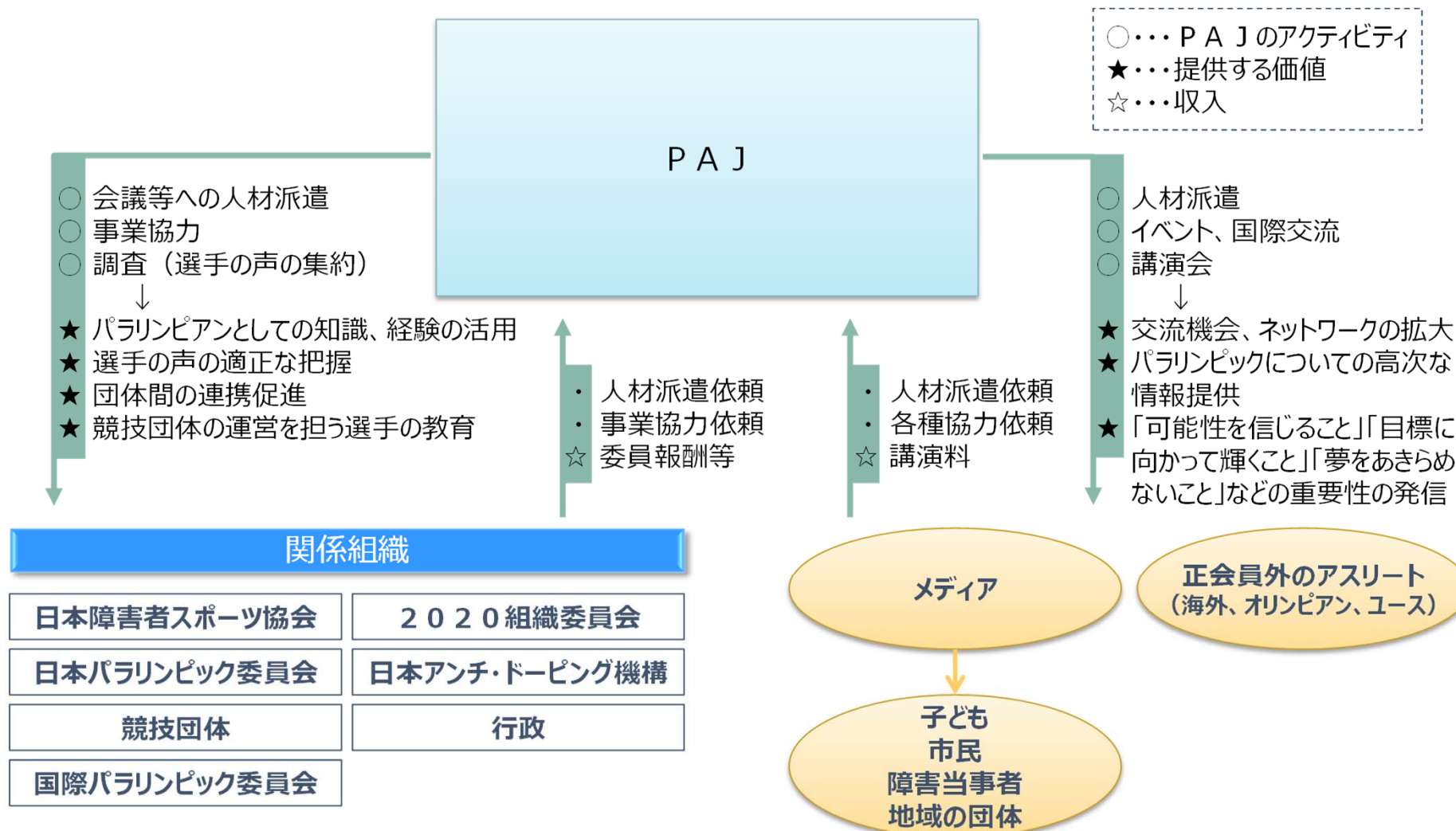
4. 事業モデル

- P A J は、正会員であるパラリンピック出場経験のある選手たちによる自律した組織（＝選手会）です。ビジョンの実現に向けて、パラリンピアン同士の団結をより一層強め、パラリンピアンだからこそできる活動を積極的に展開します。
- P A J では、より多くのパラリンピアンが活動に参画できるように、正会員から会費を徴収していません。P A J の活動は、賛助会員の支援（年会費）、ボランティア活動によって支えられています。
- 今後は、定常的なパートナーシップに基づいて協働する「サポート企業」の位置づけも検討します。



4. 事業モデル

- P A J が展開する事業、取組には、多くのステークホルダが存在します。それぞれのステークホルダに価値を提供し、関係を深めながら、事業、取組を推進します。



5. 基本戦略

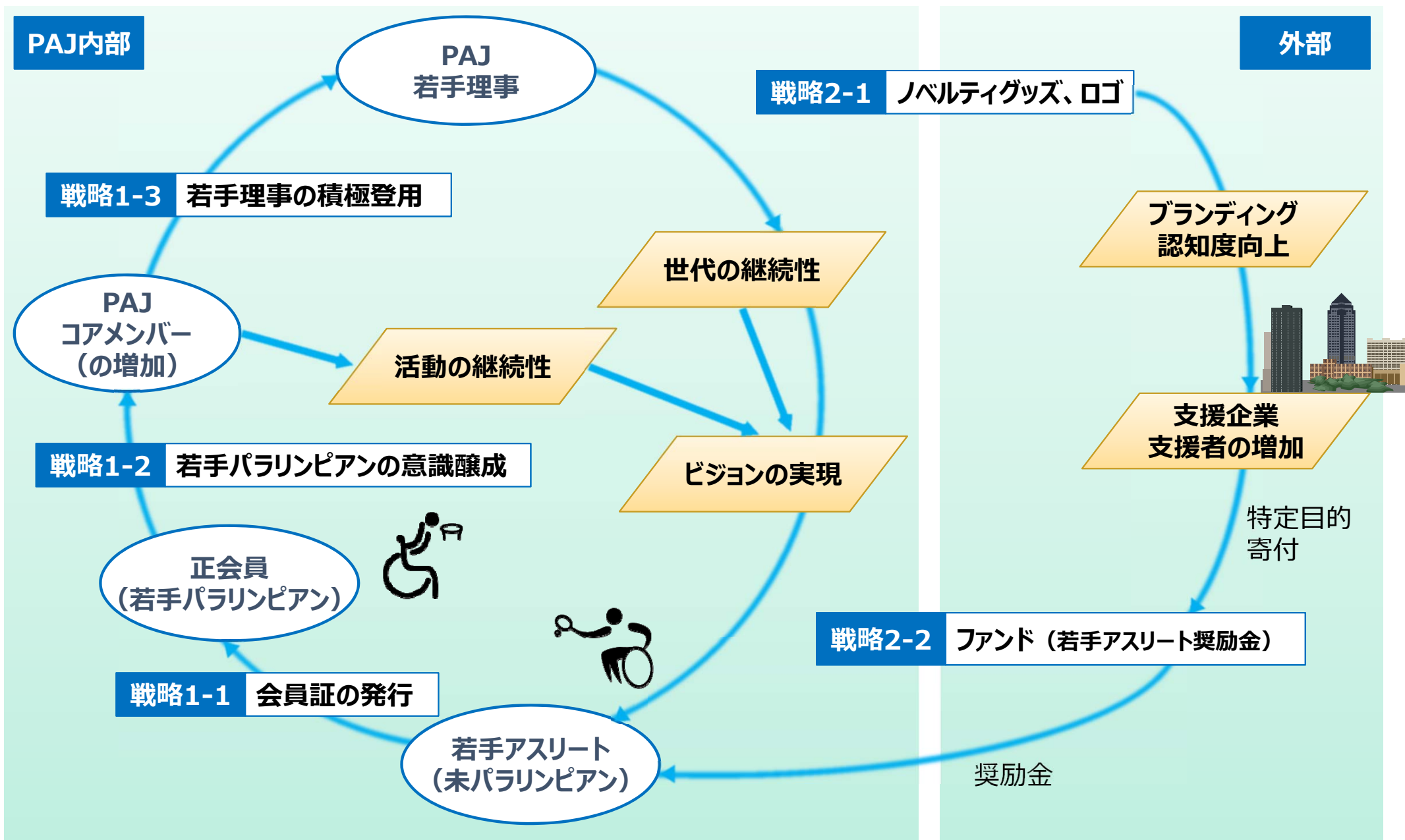
基本戦略（1） 持続可能な運営

- PAJへの入会から運営の中核を担うまでのライフサイクルを想定した戦略的な仕掛けにより、内外の好循環を創出。
- 好循環の創出により、「活動の継続性」及び「世代の継続性」を実現。

基本戦略（2） ステークホルダとの接点の強化

- 外部に向けたPAJのブランディングを検討。
- ブランディングによる支援企業、支援者の増加が、若手アスリートや若手パラリンピアン増加につながるような仕組みを構築し、戦略（1）の好循環をさらに加速。

5. 基本戦略



6. 収支計画

期	収入			支出		
	計	寄付・会費	事業収入	計	事業費	管理費
2014	4,272	2,070	2,200	1,709	1,399	310
2015	7,320	4,320	3,000	2,800	2,300	500
2016	8,000	4,000	4,000	8,000	4,000	4,000
2017	12,000	7,000	5,000	11,400	6,000	5,400
2018	15,000	9,000	6,000	14,900	9,500	5,400
2019	19,000	11,000	8,000	17,700	10,500	7,200
2020	20,000	11,000	9,000	18,700	11,500	7,200
2021	20,000	11,000	9,000	19,900	11,500	8,400

<参考：2021年（着地点）の内訳イメージ>

■収入

（会費・寄付）：11,000千円
 会費・寄付 8,000千円
 クラウドファンディング 3,000千円
 （事業収入）：9,000千円
 講演収入 5,000千円（100千円×50回）
 事業収入 3,000千円（300千円×10回※企業研修等）
 ノベルティグッズ販売 1,000千円

■支出

（管理費）：8,400千円
 人件費 7,200千円（300千円×12か月×2人）
 事務所管理費 1,200千円（100千円×12か月）
 （事業費）：11,500千円
 講演事業 3,500千円
 情報発信・勉強会・交流会 4,000千円
 若手アスリート奨励金 3,000千円
 ノベルティグッズ製作 1,000千円

7. 当面の事業と企画

事業	主担当	副担当	協力
(1)パラリンピック選手の競技環境 その意識と実態調査	初瀬		田中暢子氏
(2)パラリンピックの価値の検討企画	大日方		笹川スポーツ財団
(3)パラリンピアンのためのテキスト作成	河合		
(4)会員証の発行	田口		
(5)ダボス会議でのプレゼンテーション	河合		
(6)若手アスリート奨励金の設立	増子	福留	
(7)企業との連携強化の方策検討	根木		
(8)勉強会の開催	高田		
(9)講演事業の実施	理事全員		
(10)外部委員等の社会貢献	理事全員		
(11)メールマガジン発行	永瀬	高田	

8. 新キャッチフレーズ

パラリンピアンは皆、世界の頂点に挑むために、自らの限界という壁を突きぬけてきました。
その結果としてのパフォーマンスは、強く明るいメッセージとして多くの方々の心に届いたと確信しています。
私たちのまわりには、社会が生み出す障害や、心理的なバリアが存在しています。
それらを突きぬけ、ポジティブなイメージへと変換するパラダイムシフトを起こす力を、
一人一人のパラリンピアンが持っている。
そんな思いを込め、日本パラリンピアンズ協会の新しいキャッチフレーズを作りました。

突きぬける!
We can make a **para**digm shift.
パ ラ ダ イ ム シ フ ト

理事、正会員の皆さま

パラリンピック、パラリンピアンを取り巻く環境は、劇的に変化しています。そのことは、私が言うまでもなく、皆さん一人一人が実感していることでしょう。

世の中の関心や注目が集まる今、パラリンピックやパラリンピアンへの価値を示す、またとないチャンスが目の前に広がっています。

一方で、ここで価値を示すことができなければ、2021年以降は、2020年東京開催が決まる以前の状態にあつという間に戻ってしまうでしょう。

そこで私たちは、自分たちの組織の役割をあらためて見つめ直すことにしました。

ゴールとミッションを明確にし、どうすれば持続可能な組織となり得るのかを考え、そして作り上げたのが、この2021年までの中期経営計画です。

さらに、私たちの活動の旗印となる新しいキャッチフレーズも掲げることにしました。

「突きぬけろ！ We can make a paradigm shift.」

前頁に記したように、このフレーズにはパラリンピアンとしてもっと積極的に行動していきたいという思いが込められています。

今、パラリンピックやパラリンピアンへの価値を国内外に示すことは、私たちが長年感じていた課題を解決し、

次世代のパラリンピアンのために、より良い競技環境を創り出すことにつながります。

さらに、超高齢社会、ダイバーシティといった社会課題の解決にも貢献することができるでしょう。

パラリンピック、パラリンピアンへの価値が認められた明るい未来を次世代につなぐのか、それとも、以前の状態に戻るのか。

私たちは、今、その分岐点に立っています。

そして、どちらの道に進むのか、パラリンピアンである私たちは、自分の意志で選択することができます。

今、何もしないことは、元に戻ることを意味します。

中期経営計画はつくりましたが、当然、何もしなくてもここに書いたことが実現されるわけではありません。

中期経営計画は、ゴールのイメージとそこに至る大雑把な道筋を示すだけに過ぎません。

ゴールを共有した上で、私たち一人一人が主体的に行動し、実現に向けて努力しなければ、ここに書いたことはただの絵空事です。

“自ら行動を起こさないと何も変わらない”

このことは、パラリンピアンである私たちが、誰よりも、身を持ってわかっていることではないでしょうか。

理事や正会員の皆さまの協力なしに、ビジョンを実現することはできません。

この中期計画によってビジョンを共有できたことを第一歩として、これからも、ともに歩み、ともに事業を推進し、ビジョンを実現していきましょう。

PAJの運営やプロジェクトへの、皆さまの積極的な参画をお願いいたします。

2016年5月1日

日本パラリンピアンズ協会 会長 河合純一

一般財団法人 日本パラリンピアンズ協会
2016～2021年 中期経営計画

突きぬけろ！ ～We can make a paradigm shift.～

協力＝株式会社三菱総合研究所